

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論) (生命理工学先端研究特論) (医歯理工学先端研究特論)

アイオワ大学 後藤 道彦准教授

「抗菌薬有効性研究のアウトカム設定 ～非劣性試験の限界からDOOR/RADAR、 階層的複合エンドポイント (HCE) へ」



鹿児島大学卒業後、沖縄中部病院、鹿児島大学、ケンタッキー大学を経て2014年米国アイオワ大学Assistant professor、2022年同Associate professor
専門は病院疫学、データサイエンス

日 時

2026年7月8日 (水)
18:00～20:00 (2時間)

場 所

M&Dタワー4階 アクティブラーニング教室
及び
Zoomによるハイブリッド講義

実施言語

日本語

参加登録はこちら

<https://forms.cloud.microsoft/r/W8Rp1h9R5Q>

※登録〆切: **2026年7月7日 (火) 10時**

※ご登録いただくとzoomの
ミーティングIDが表示されます

※現地参加の方もご登録ください

参加登録QRコード



申込方法

【主催】
東京科学大学大学院医歯学総合研究科 統合臨床感染症学分野
【共催】
東京科学大学 Resilience-Tech Society Visionary Initiative
【お問い合わせ先】
東京科学大学大学院医歯学総合研究科 統合臨床感染症学分野
担当: 船田慧里子 (efunada.cid@tmd.ac.jp)
TEL: 03-5803-4138

アイオワ大学 後藤 道彦准教授

「抗菌薬有効性研究のアウトカム設定 ～非劣性試験の限界からDOOR/RADAR、 階層的複合エンドポイント（HCE）へ」

要 旨

抗菌薬などの有効性を比較するランダム化比較試験の方法として非劣性試験が多く用いられてきたが、マージン設定の恣意性や複数アウトカムを同時評価できない等の大きな問題を抱える。本講義ではこれを克服するため感染症領域で提唱されたDOOR/RADARを概説し、その一般化である階層的複合エンドポイント（HCE）への発展を解説する。Win Ratio等の効果指標と共変量調整可能な解析法、最新の応用例も紹介する。

【主催】

東京科学大学大学院医歯学総合研究科 統合臨床感染症学分野

【共催】

東京科学大学 Resilience-Tech Society Visionary Initiative

【お問い合わせ先】

東京科学大学大学院医歯学総合研究科 統合臨床感染症学分野

担当：船田慧里子 (efunada.cid@tmd.ac.jp)

TEL：03-5803-4138